

—効果的な講習を実施するために—

結論：地域住民等は、何を学びたいかを知る

出前講座内容を広報
講習内容の要望調査

防災講演会



「どのような防災講習をしていいか
分からない住民がいる」 !!

井川 博之

背景

防災出前講習の現状

A 災害対策等に熱心な住民等は、自ら学び積極的に防災研修等を受講し防災知識が高い。
自ら受けたい講習を選択して受講している。

B 一方では知識が十分でない住民等がいる。
出前講座の申し込み・講習中の質疑から
防災・減災を果たすための知識が十分でなく、
違った講習内容を望んでいるのが見られる。

”住民等が何を学びたいか明確にする”

講師側：地域環境や過去の防災研修内容を講習依頼者から聞き取りを行い内容を決定していた。その他、話題になっている防災対策を実施している。

※講師は押し付け内容の講習にならないよう努める。

(例) 講習依頼時の内容

- ① 講習を実施したことがないので「何かお願いします。」
- ② 内容はお任せします。
- ③ 講習の依頼者側がに防災に対し認識不足なため、最近、他の地域で実施した講習の内容でお願いしたい。

講習時の質疑応答において、受講者から他にどのような内容の講習があるのかなどの質問もあった。

どのような出前講座内容にしてよいか、分からない依頼者がいる。⇒ 住民等へ広報等を実施する必要性

広報活動：公共施設にポスターやチラシ・イベントへのPR
・地域リーダーや団体との連携・メディア



アンケート調査：
各年齢層で学びたい内容を知る

資料の配布：
(出前講座の内容
・出前講座カリキュラムマップ)



実践的な講習：
アンケート結果による実践的な講習を実施

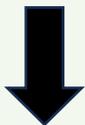


受講者からの要望や、地域が必要とする内容とした講習を実施する。

アクティブ・ラーニング

・能動的なグループディスカッションやグループワーク等。

・住民 事業所へ
インセンティブづくりの提案



住民が知りたいことを学ぶ
災害への備えや災害発生時の対応の充実

地域住民等への広報活動の実施

- 今回は、広報活動として住民等へ出前講座の内容を示す広報誌を配布するとともに、各種集会等を捉え紹介を行う。

広報誌事例：タウンニュースとして地域住民へ配布

配る部数：2300～2400部 費用：無料 大きさ：A4

配布方法：地元新聞紙に折り込み配布



内容

- ① 講話：南海トラフ・中央構造線断層帯について知る。
- ② 講話：台風時等における避難対策について
- ③ ダンボール箱でトイレ、ベッド、イスの作成
- ④ ロープの結び方
- ⑤ 災害への備え非常食・避難リュック
- ⑥ 避難所運営ゲーム（HUG） ⑦災害図上訓練（DIG）
- ⑧ クロスロード災害対応カードゲーム）
- ⑨防災カルタゲーム

あなたと共に
新聞
発行
印刷

タウンニュース [第 392 号]

※MARINE (海) PEER (仲間)

防災・減災講習会!

事業所・自治会等の関係者や住民の方は…

特に自然災害時における各家庭や地域のリスクを知っておくのは重要です。また、災害に至った場合、被害を少なくするための対策を平時から講じておかなければなりません。災害発生時には家族の安否・避難・備蓄・避難所生活・避難所運営・食料・トイレ・生活再建、その他にも自宅の耐震化などたくさんの課題があります。これまでに事業所、学校、自治会等で実施されました講習会での内容の一部をあけてみました。

講習会って
どんなこと
するのかな。

講習会を
開催したいが
「はて?」どんな内容
にすれば」
と迷って
いませんか。



- 1 講話:南海トラフ・中央構造線断層帯について知る (想定・避難・避難所)**
- 2 講話:台風時等における避難対策について**
- 3 ダンボール箱でトイレ、ベッド、イスの作成。**
- 4 ロープの結び方**
用途にあったロープの結束技術を身に付けて、災害時に近所の人と協力して救助活動し、日常生活にも活用する。
- 5 災害への備え 非常食・避難リュック**

- 6 避難所運営ゲーム (HUG)**
図面でも各世帯が避難するのを想定し、避難所の配置や物資の受け入れ等にもなる課題点を体験し、避難所運営を実感することが出来ます。(住民一人ひとりが体験しておくことが重要です。)災害時には避難所を直ちに開設しなければなりません。身体を動かしての訓練も必要です。
- 7 災害図上訓練 (DIG)**
住民だからこそ知っている知識で、被害を予想し、地域の図面に記入することにより危険を発見するものです。災害や被害の危険性を「見える化」することによる「気づき」「考え」「話し合い」をおこないます。
- 8 クロスロード (災害対応カードゲーム)**
グループゲームで災害への備えや災害後に起こる様々な問題を自らの問題としてアクティブに考え、自分とは異なる意見・価値観に気づくことができる。
例:あなたは、避難リュックに家族分の非常食を持って体育館へ避難してきました。隣の避難者は非常食を持っていません。あなたはお腹がすいたら、みんなの前でも避難リュックをYES・開ける。NO・開けられない。
- 9 防災カルタゲーム**
カルタ・防災マップ等により、防災知識を身に付ける。また、「振り廻り」として水害・津波であれば逃げるための注意点や気づいたことを話し合い、防災意識を高め防災力の向上を図る。

防災・減災講習会! No.2

毎年、大雨・台風・地震が頻発し大きな被害をもたらしています。これらの自然災害から命を守るためには、平時から防災知識を身に付け、備えをしておくことが大切です。

事業所・自治会等の関係者で講習会を開きたいが、「はて?」「どんな内容にすれば」と迷っていませんか。また、「どんなことをするのかな」と思っている方はいませんか。



令和6年6月25日 タウンニュース [392号] マリンピアへの掲載に引き続きどのような内容の項目があるのか、今回、更に紹介します。なお、6月25日に紹介した講習項目は、次のとおりでした。

- ①南海トラフ・中央構造線断層帯について知る。(想定・避難・避難所)
 - ②台風時等における避難対策について
 - ③ダンボール箱でトイレ、ベッド、イスの作成
 - ④ロープの結び方
 - ⑤災害への備え 非常食・避難リュック
 - ⑥避難運営ゲーム (HUG)
 - ⑦災害図上訓練 (DIG)
 - ⑧クロスロード (災害対応カードゲーム)
 - ⑨防災カルタゲーム
- 以上9項目の内容でした。

今回は次の10項目の講習を紹介いたします。

- 1 体験型避難シミュレーションゲーム**
災害発生時、家具や装飾品等が落下したのを想定し避難体験をする。
- 2 炊き出しについて**
衛生、アレルギー(28品目)対策について考える。避難所で提供する食事の原材料を表示した包装や食料を示した献立表を掲示し避難者が確認できるようにする。
- 3 通勤・登下校中の安全対策**
- 4 ガラス飛散防止・家具固定**
ガラス飛散防止のためのフィルムを貼る実習。
- 5 四国八十八話、地震津波碑について**
地域の過去の災害を知る。
- 6 緊急連絡カード**
緊急連絡カードを作成し自分がどのような支援を必要としているか周囲へ伝え、理解を得る。住所・緊急時の連絡先・服用している薬等。
- 7 救命講習**
平時や災害時で、心肺停止している人への救命処置の方法。
- 8 家庭の備蓄**
ローリングストック、飲料水の確保について考える。
- 9 旅行・外出時等の防災用品**
旅行・外出時等での災害対応として携帯品を考える。
- 10 災害時の情報収集**

※他にもいろんな講習がありますが、各項目を組み合わせる講習、1項目のみの講習とする方法も出来ますね。

広報誌の配布における住民等の反応

・地域住民組織の代表者：

学習内容が数多くあるのを知った。住民もこれを見て関心を持ってもらいたい。

・住民意見：災害の備えばかり考えていたが、**体験型の講習があるので、**次回は受けたい。

：講話のみでは、実感がわかないので、**参加者間での対話や実技**を受けたい。

：どういう内容があるのか、**もっと知りたい**。

結果：住民は、視聴のみの講習では、十分に満足しておらず、体験型等により更に防災に関する関心度を高めることが確認できた。



避難所運営ゲーム
(HUG)



防災
カルタ



打合わせ時等における配布資料

出前講座の内容

計 48 項目

別紙 1 出前講座の内容 (計 48 項目)

時間90分 又は60分	科目	内容	その他
入門 (基本編)	1 地震について学習 南海トラフ地震 中牟横浩線	①地震発生の仕組みを学習 ②震度・マグニチュード・液状化現象・津波等の被害について	・各科目内の内容が多種ありますので、何項目かご指定ください

時間90分 又は60分	科目	内容	その他
入門 (基本)	5 家庭の備蓄	⑤ローリングストック、飲料水の確保について	・各受講内容によっては、受講者側で資機材等を準備していただく場合があります。
	6 防災訓練	⑥家族、町内会、事業所等での訓練について(消火・避難所までの避難)	
	7 昔の災害について	⑦四国八十八話、地震津波碑等について・地域の過去の災害を知る	
	8 その他 トイレ、ベッド	⑧段ボールでトイレ・ベッドの作成 被災後のトイレ点検方法 ベッドの必要性について	
	ロープ結索	⑨救助、救出、被害防止のためのロープの結索方法	
	緊急連絡カード	⑩緊急連絡カードの作成 自分がどのような支援を必要としているか周囲への確に伝え理解を得る	
	ガラスの飛散防止	⑪ガラス飛散防止対策(フィルムを貼る)	
	スリッパ他	⑫被災時、事故防止のため新聞紙で作成 ・ビニール袋で雨衣作成	
救命講習	⑬心肺停止において救命処置の方法・止血法 etc.		

○ 内容欄について・・・各番号の組み合わせでの講習も可能ですのでご相談ください。

○【出前講座へ初めて参加される方へ】・・・【入門(基本編)】

I 入門(基本編)の①～⑥、⑦⑧⑨⑩⑪を受講しましょう。

II 風水学習は⑫⑬及び⑭を受講し、⑮も合わせて受講すると効果的な学習となります。

III 「I」を受講された方で、避難について学習されたい方は更に⑯⑰も学習しましょう。

IV 自宅の安全対策を考えている方は⑱を受講しましょう。お勧めします。

V 災害発生後の対策として⑳㉑㉒なども受講しましょう。

【探究・体験等】 災害発生において自宅・避難所等で起こり得る状況を想定し、身近に体験できるプログラムです。是非体験し対策について一緒に考えましょう。

時間90分 又は60分	科目	内容	その他
探究・ 体験等	1 避難	① 非常持ち出し品ビンゴゲーム ゲームにより非常持ち出し品目を再認識する。 ② 体験型避難シュミレーションゲーム 家具や装飾品等が落下し散乱していると想定し避難体験する。 ③ PDCA サイクルについて 児童や事業所等において避難訓練等で検証型プロセスを縦貫させ、よりよい避難行動ができるようにする。 ④ 災害図上訓練(DIG) 地域の被害を予想し、図面に記入し危険性を「見える化」することにより「気	・賞品は受講者側でお願いします。

時間90分 又は60分	科目	内容	その他
探究・ 体験等		⑫ 避難所運営ゲーム(HUG) 避難所の配置や物資の受け入れ等にもなる問題点を体験する。(グループ) ⑬ クロスロード(災害対応カードゲーム) 災害への備えや災害後に起こる様々な問題を自らの問題としてアクティブに考え、自分とは異なる意見・価値観に気づくことができる。(グループ) ⑭ 防災カルタゲーム カルタにより防災知識を身につける。また、「振り返り」として災害から避難するための注意点や気づいたことを話し合う。(グループ) ⑮ ブロック塀 倒壊により避難路をふさぎ、転倒落下により、死傷事故が発生するのを防止するためブロック塀を知る。地域を見る。 etc.	

※表内の内容は一部ですが、各内容を組み合わせて実施するのも可能です。受講したい内容が見当たらない場合は、ご相談ください。

※災害発生後、被災者に対する支援制度として支援金を受けられる各種制度があります。そのための調査や罹災証明書等については各市町村や関係機関がおこないます。住民はどのような支援か、知っておく必要があります。

入門
(基本編)

入門（基本編）で内容を学習し、探究・体験等へ進みましょう。

探究・体験等

①地震発生の仕組みを学習 ②震度・マグニチュード・液状化現象・津波等の被害 ③沿岸部や各地域の被害想定 ④国内外で発生した地震について ⑤平時の備え（避難計画・避難路・避難所の確認）⑥情報収集（各種警報等）⑦緊急地震速報、南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！⑧通勤 登下校中の安全対策⑨避難直前にすること⑩地震・津波防災マップ ⑪その他（土砂災害など）

※必須 災害を知り対策を考える。

風水害学習

⑫情報収集 ⑬平時の備え（避難計画・避難路・避難所の確認） ⑭避難中の注意点 ⑮過去の災害（第二室戸台風など）⑯洪水・高潮ハザードマップ ⑰その他（土砂災害など）

避難時の準備

⑱非常持出品 ⑲平時における家族・事業所等での計画 FCP・BCP ⑳自治会等における計画等 ㉑在宅避難者

家の安全対策

㉒避難路の確保㉓建物の耐震化、家具固定 ㉔その他

家庭の備蓄

㉕ローリングストック、飲料水の確保

その他：基本的な探究・体験等⑳⑲～㉓

防災訓練/昔の災害/段ボールでトイレ、ベッド/ロープ結索/緊急連絡カード/ガラスの飛散防止/スリッパ他/救命講習 etc.

避難

①非常持ち出し品ビンゴゲーム ②体験型避難シュミレーションゲーム ③PDCA サイクル④災害図上訓練(DIG) ⑤マイタイムラインの作成。

避難所

⑥避難所設営ゲーム(HUG) ⑦ファーストミッションボックス ⑧配慮が必要、必要ななどの支援度を考える。⑨避難者のタイプを考える。(高齢者)

その他

⑩炊き出し訓練 ⑪消火訓練 ⑫避難所運営ゲーム(HUG) ⑬クロスロード(災害対応カードゲーム) ⑭防災カルタゲーム ⑮ブロック塀 etc.

災害発生後!!

入門(基本編) 探究・体験等
例示：避難・避難所生活に至るケースを学ぶ

講習申をお申込みについて：
まずは、受講は入門（基本編）から受講をお勧めします。他にご希望される場合は、ご相談ください。



アンケート結果

2023.8~2024.6

今日の防災学習アンケート ← アンケート表 1

該当する番号を○で囲んでください。

問1 あなたの年齢

- 1 幼稚園児 2 小学生1年～3年
- 5 高校生 6 20歳～30歳

問2 今日の防災学習はどうでしたか

- 1 わかりなかった 2 少しわかった

問3 今日の防災学習のことを家族で話し合いましたか

- 1 はい 2 いいえ

問4 今後どのような内容の防災学習を受けたいですか。

- 1 地震について学習 2 風水害について学習
- 3 避難時の準備 4 家の安全対策 (家具固定・耐震化)
- 5 家庭の備蓄 6 防災訓練
- 7 昔の災害について (教訓の伝承)
- 8 その他 ()

問5 今日の防災学習について意見を記入してください。自由に記入してください。

※このアンケートは今後の防災学習に役立ちます。

問4 今後どのような内容の防災学習を受けたいですか。(複数でもいいです) ←

- 1 地震について学習 2 風水害について学習 ←
- 3 避難時の準備 4 家の安全対策 (家具固定・耐震化) ←
- 5 家庭の備蓄 6 防災訓練 ←
- 7 昔の災害について (教訓の伝承) ←
- 8 その他 () ←

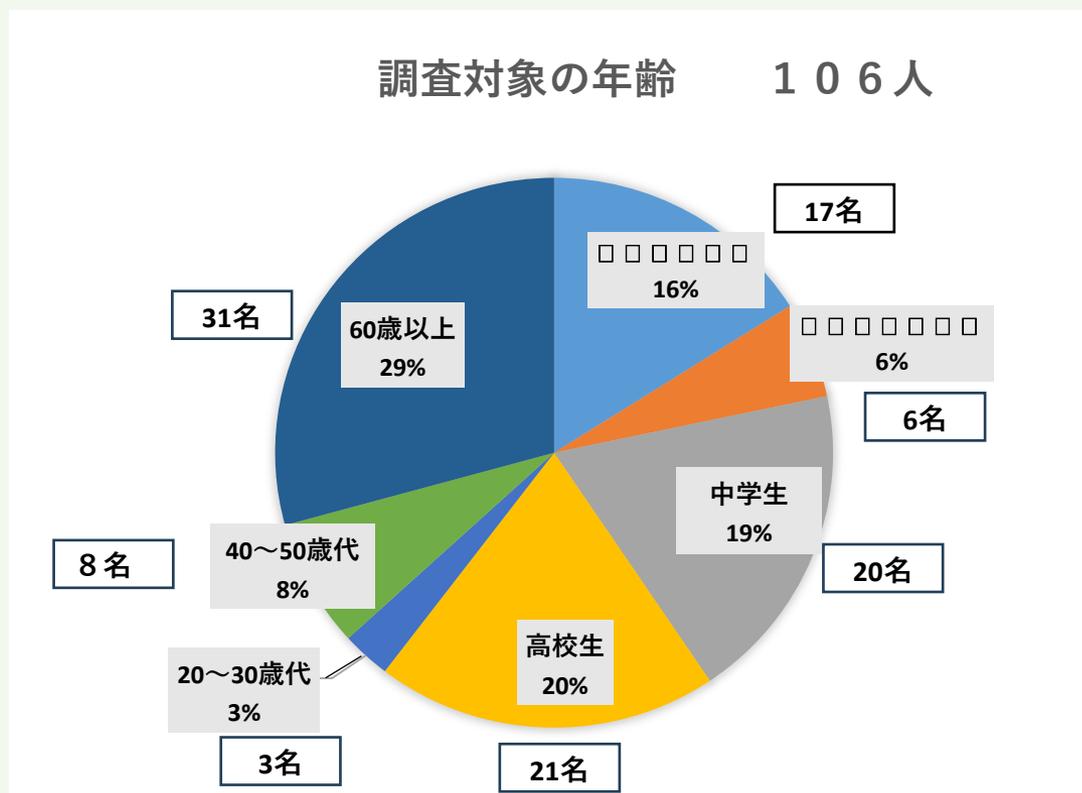
調査期間・対象者数等

① 調査期間：2023.8～2024.6

② 調査対象者数

・小学生 1～3年	17人 (16%)	・小学生 4～6年	6人 (6%)
・中学生	20人 (19%)	・高校生	21人 (20%)
・20歳～30歳代	3人 (3%)	・40歳～50歳代	8人 (8%)
・60歳以上	31人 (29%)		計 106人

※ 端数処理の関係で、内訳の和が100%になっていません。



年代別 順位	小学 1~3 年生	小学 4~6 年生	中学生	高校性	20歳 ~ 30歳代	40歳 ~ 50歳代	60歳 以上
1	家の安全 対策(家具 固定) 23%	地震の 学習 45%	地震の 学習 45%	風水害 36%	家庭の備蓄 50%	教訓の伝承 50%	防災訓練 30%
2	防災訓練 15%	風水害 11%	家庭の備蓄 防災訓練 11%	教訓の伝承 32%	避難の準備 33%	防災訓練 17%	避難の準備 24%
3	教訓の伝承 11%	家の安全策 (家具固定) 11%	風水害 10%	家の安全対策 (家具固定) 地震の学習 10%	地震の 学習 17%	避難の準備 16%	家庭の備蓄 19%

複数回答で集計

まとめ

- (1) 講習内容は多様にわたるため、住民等が**どのような講習があるか機会を捉えて広報**
- (2) **実践的な講習内容となるよう努める**と共に講習依頼者及び講師は普段から住民等の防災知識の向上を図るため**住民等には何が必要か把握するよう努め**なければならない。

気づき

講習内容を決定するとき、これまで実施した数種類から内容を浮かべ、決定していたのは少なくない。

・・・このことから受講者の求める内容でなかったというケースもあったと思われる。

今回、特に「出前講座カリキュラムマップ」を作成したことにより、地域住民等への内容が適切に分かりやすく伝えられ、地域の方々の理解が容易に得られる。

分類： 入門（基本編）⇒ 探究・体験等

また、住民等へ積極的に情報提供することにより住民自身が、必要な知識とするものを見つけ、必要な知識を求めることができる。その結果、有意義な講習につながっていくと思料します。